

○ 宋 永澧氏：台湾人口研究中心副研究員

年月日：1967年9月26日～(約3か月滞日の予定)

用務：人口分析の方法についての研修および日本の人口研究状態の調査のため

連絡機関：台湾人口研究中心

国際人口学会シドニー会議

1967年8月21～25日、オーストラリア連邦のシドニーにおいて、標記の国際会議、すなわち International Union for the Scientific Study of Population, Sydney Conference が開催せられ、本研究より人口移動部移動科長 黒田俊夫技官 および人口政策部主任研究官 岡崎陽一技官がこれに出席した。この会議は、1965年9月、ベオグラードの世界人口会議における決定に基づいて開催されたものであるが、今回はとくに E C A F E 地域に重点をおいた regional meeting である点に特色があった。次回は、2年後の1969年にロンドンにおいて総会を開催することに決定されているが、さらにロンドン会議の後には、アメリカにおいて regional meeting を開催する案が提出された。なお、現在国際連合人口部 調査技官(人口移動部移動科)もこの会議に出席した。

この会議に次いで、国際人口学会のオーストラリア開催の機会にとくにオーストラリア国立大学が組織した「大学における人口教育の役割についてのキャンベラ会議」(The Role of Universities in the Training of Demographers, Canberra Conference), 1967年8月28・29日にも引き続き参加し、この国における大学の人口訓練の現状の報告と討議を行なった(両会議の内容についての詳細は、「資料」として前掲の黒田執筆による報告を参照されたい)。(黒田俊夫記)

韓国人口問題研究所および台湾人口研究中心研究員の 人口研究に対する援助と協力

昨1966年においては、韓国人口問題研究所(The Institute of Population Problems, Seoul, Korea)より、尹鍾周政策課長(Mr. Jong-Joo Yoon)、洪永杓分布課長(Mr. Young-Pyo Hong)、高甲錫推計課長(Mr. Kap-Suk Koh)、および金汶模資質課長(Mr. Moon-Mo Kim)の4研究員のそれぞれ2か月間にわたる人口研究に対し、当研究所は助言、指導委員会を組織し、来所研究者の個別的、専門分野に応じた助言、指導を行なった(『人口問題研究』第99号、昭和41年8月、70ページ、および第102号、昭和42年4月、64・65ページ参照)。

昨年に引き続き、本年は台湾人口研究中心(Taiwan Population Studies Center, Taichung)から副研究員宋永澧氏(Mr. Yung-Li Soong)がミシガン大学 Population Studies Center (Director, Prof. Ronald Freedman)の財政的援助の下に人口研究のため来日されたが、当研究所は同氏の研究援助のため助言、協力グループを編成した。研究課題の中で、とくに年齢別死亡率の低下が平均余命に及ぼす貢献度の測定方法、出生力に影響を及ぼす経済的、社会的要因の多元回帰分析の方法論に関し共同研究会を開催するとともに、台湾人口研究中心の人口動態検証のための画期的な実地調査である「全省生命統計抽様調査」について意見の交換を行なった。さらにまた、日本ならびに台湾における人口現象の比較検討、総合的比較研究の方法論についての活発な討議を行なった。

なお、同氏は1967年9月26日に来所、約3か月間滞在の予定であるが、この間、厚生省大臣官房統計調査部、国立公衆衛生院、大阪大学医学部公衆衛生研究室、京都大学東南アジア研究センター、広島大学医学部等の各機関を視察し、とくに公衆衛生と死亡の問題についての研究をされることになっている。

(黒田俊夫記)